

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400042		
法人名	株式会社 ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 水垂の里 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県掛川市水垂126-1		
自己評価作成日	平成26年1月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>◦自立支援、残存能力の維持に努め、出来る事を生活の中で行って頂く</li> <li>◦おむつはずしに努める。昼間布パンツ、夜間必要な方のみ紙パンツ対応</li> <li>◦水分摂取、水の生理学を学び、水分摂取に努めている。</li> <li>◦地域交流、地区の行事参加又研修センターを地区に開放している。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域へのお役立ち」を念頭におき、防災倉庫とごみステーションを備えての設立から早2年、いまだその心そのままに、「感謝の心を忘れず行動し、地域に必要とされる事業所になれるように」との姿勢をもって毎日の運営に取り組んでいます。敷地内にある別棟の研修センターは地域住民にも開放しており、区会の集まりやハーモニカボランティアの練習場として活用され、地区のお祭りにも声をかけてもらえたり、ハーモニカの発表会が事業所であるなど功奏しています。その積み重ねの集大成として事業所の夏まつりには200名余の参加があり、おでんや焼きそば、かき氷を日頃の感謝の気持ちにかえて振る舞いました。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が、理念を意識し実践出来る様努力している。	「すべての職員が同様に理念の実現に向かっているかというまだまだで…」との誠実で前向きな管理者の下、研修会も増やしての向上への取組みが行われています。	まずはルールとしている「入社、退社時には着替える」が守られ、小さなことからの実現を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に積極的に参加している。	エスケープ保護の実績もあるため、引っ越し挨拶のように新しい入居者と連れ立って近所宅を訪ねることもあるほど、地域とのつきあいが深まっています。柘榴や蜜柑とともに地域情報が届けられ、ごく普通の近所つきあいがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会などで、地域の方に理解してもらえる様話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様の意見を聞きながら業務に活かしている。	地域包括支援センター職員、民生委員、区長、副地区長、家族の出席があり、年6回開催しています。話し合いのなかで家族同士のコミュニティが生まれつつあり、定期で顔を合わせることの意義を管理者は感じています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長とケアマネが事業所連絡会に参加している。	運営推進会議の議事録を毎回届け、事業所の活動を知ってもらえるよう努めていますが、地域包括支援センターとの関係が密のため、間接的に市とも連携が図られているという状況にあります。年2回の事業所連絡会にも出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。(県に提出している)	車いすは移動手段と捉え、常には好みの椅子やソファに腰かけてもらうことを慣行しています。静岡県が主催する研修会にも毎年参加のうえ、所内研修会も実施されています。夜間活動したい利用者には、職員が一晩中寄り添い、拘束の予防にも余念がありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束フォーラムに主任参加。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の研修で全員学んでいるが、知識不足の為、今後も勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・ケアマネを中心に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と会った時など意見を聞き日頃の業務に活かしている。	受診日やパッドの持ち寄りがあったときに意見がもらえる機会として、会話をもつよう心がけています。家族は利用者の暮らしやすさについて積極的に進言してくれるため、事業所としてもカンファレンスを開くなどして実現につなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーション、ユニット会議などで意見を聞く機会を設けている。	ユニット会議は敢えて管理者が参加せず、主任とケアマネージャー、職員とで話し合いをもっています。一方、個人面談は月1回ペースで続け、聴く姿勢を貫いています。	職員間の報連相がスムーズになるような取組みが行われるよう、一度話し合いの機会をもつことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力はしているが、全員が同じ思いでいてくれているかは、わからない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に参加している。今後も沢山のスタッフに色々な研修に参加してもらいたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者と出会う場を大事にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を聞き、良い関係を持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長・ケアマネを中心にご家族様の要望を聞きながら、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族様にこれまでの生活歴などを聞き、必要としている支援を見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に出来る限りの事をしてもらい、本人も職員も一緒に生活しているんだよ。と感じてもらえる様努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と本人の絆を大切に、行事などに積極的に呼び掛け本人と御家族様が交流できる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に出来る限り添える様努めている。	敷地内にある地域防災倉庫のポンプ車の点検に訪れる人とは馴染みとなり、定期訪問者として歓迎し、会話も弾んでいます。熱燗の習慣が続けられるよう支援していますが、主体性を保ってもらうために温度調整も本人にお願いしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや家事などを通して職員と共に利用者様同士仲良く出来る様努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から連絡が来た時は、出来る限りのフォローをする様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを把握し、叶えてあげられる様努力している。	不安定となり暴言もでた利用者が髭剃りで落ち着くことがわかった例もあり、あれこれ悩むよりその人に関わることを第一としています。会話を通して知ることも多く、寄り添い関わることで意向把握に努め、その人らしさを見出しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報を聞き、生活を把握出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に寄り添い心身の状態を把握するよう		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファを行い、職員・ケアマネを中心に話し合い介護計画を立てている。	担当制を敷いていますが、利用者情報を共有するために口頭でも書面でも伝えあっていて、モニタリングも全員で行っています。現在の行動が生活歴からきていることが比較的多いため、課題のある人は家族を協力者として探究しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、利用者様に関わる全ての記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とコミュニケーションを取りながら、職員と話し合いをし、本人主体のサービス対応を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしを把握し、本人の力を発揮できる場面を作り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、本人・御家族様の希望を大切に、かかりつけ医と良好な関係を作るよう努力している。	かかりつけ医の受診は家族にお願いしていますが、必要に応じて職員も同行しています。また、日々の健康管理にも配慮し、日に2回バイタルチェックを行っています。月1回訪問歯科もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	Nsは居ないが、気付いた事は早く連絡するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリで情報交換をしたり、見舞いに行った際、御家族様・病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から取り組むようにしている。また今後も迅速な対応が出来る様努めていく。	家族の希望を尊重したい考えもありますが、実際は医師の判断を最優先としていて、結果他の機関への移転となります。そういった状況でも、看取り実績は1件あり、職員の成長にもつながったため、今後は取組んでいきたいと準備を進め、職員研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの確認を、今一度全職員でやって行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。今後は全職員が災害時に対応出来る様にしていく。地域との連携は取れていく。	「避難経路を用意したほうがよい」とのアドバイスを地域からもらったことからフェンスを取り壊し、誘導しやすくなりました。法定訓練には消防署職員も指導に加わり、また職員は地域の訓練に向いています。近隣からは「協力するよ」との嬉しい声も挙がっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けているが、出来てない部分も多々あるので、一人1人の人格を尊重した言葉掛けに努めたい。	個人の農機具を持ち込んでいる人もいて、草取りに勤しむ利用者が多くいます。たまたま同じ趣味の人がいたということもありますが、事業所が役割をもってもらうことを意識して奨励していることが大きく影響している事例です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を決定出来る様にしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて行うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った身だしなみが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを職員と共にやっている。	食事では車いすから椅子への移動を支援していることを視認しました。また食べることが難しくなった人には特別メニューを提供しています。食のイベント日を設け、鍋パーティやラーメンを堪能しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、その日の状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをし、月に1度歯医者来館し検診を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ外し、自立支援を行い一人一人の排泄パターンを探っている。	「目標は歩けるようになる」を合言葉に、「車いすの場合でも本人主体でトイレ」とし、生活のなかでのリハビリに取組んでいます。オムツは少しも力を入れていることの一つで、自立支援への意識は職員間に浸透しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、なるべく薬を使わず、身体を動かす事で予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調をみて、なるべく本人の希望に添うよう支援している。	一人ひとり湯をはりかえ、車いすでも湯に浸かる満足感を味わってもらえるよう職員が苦心しています。水虫には酢を入れた足浴を続け、現在は全員水虫がありません。菖蒲などの行事湯も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人1人の生活リズムを把握し、気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が理解していない為、普段と少しでも違う症状が現れた時はご家族様に連絡しDrに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を共に行い、それが出来ない利用者様には、何か他の事をしてもらえる様考え、色々な事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人1人の希望を叶えてあげたいと思っているが、実際はなかなか出来ていない。	洗濯物の取り込みや草取りといった、生活のなかでの自然な外気浴に取組んでいます。散歩では近所の皆さんとの会話もあり、戴きものがあったりと、多様な時間がもてています。ドライブを兼ね空港、向日葵畑、花鳥園へも出かけています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約上個人管理されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればご家族様に協力してもらいながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、いつも清潔にしてあり季節感を取り入れた壁画を作っている。	温度、湿度に気配りし、加湿器は2台置かれ、ドアノブなどコンタクトポイントは毎朝丁寧にふきあげています。レクリエーションの様子をおさめた写真集が置かれ、来訪者にも親しまれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人1人の希望に添えていないので、今後は利用者様の声にもっと耳を傾けてあげたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で本人が使っていた物を持って来てもらっている。(位牌や椅子・TVなど)	ベッドはリースです。ベッドだけでなく布団の部屋もあり、自由度の高さが伝わります。テレビや仏壇の持ち込みもあり、書道やアイロンと趣味のものもみられ、想い想いの居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所・居室の場所がわかるように名札をつけている。		